CTG・2018年春闘・組織拡大
建交労道本部闘争速報
2018年2月9日／第8号
〒060-0909 札幌市東区北9条東1丁目北海道労働センター2F
TEL011-711-7377
FAX011-711-7388
e-mail／kenkoro-do@nifty.com

JR北海道が無期雇用転換と処遇改善

勤続功労金など正社員と同等に

ＪＲ北海道は、４月１日から実施される「無期雇用転換」の申し出に合わせ、各組合との交渉や事務折衝を続けてきました。会社は、４月１日以降権利が発生する有期雇用の社員全員に希望確認をおこない、希望者全員の無期雇用への転換を実施します。さらに、スタッフ社員については、無期雇用化にあわせて福利厚生面の改善もおこないます。新設されるのは「雇用期間５年毎に勤続功労金５万円支給」「病気休職制度」「結婚休暇を有給で６日間付与」「結婚記念品の贈呈」「忌引休暇の範囲拡大と日数増」で、正社員と同等に改善されます。

労働契約法の改正以降、建交労北海道鉄道本部は春闘要求で有期雇用社員の処遇改善を求め続けてきました。今回の結果が示されたことで「継続は力」だと再認識するとともに、今春闘では、無期雇用への申し出ができる権利発生期間の短縮や、フルタイマー及びパートタイマー社員についても改善させることなど、働きがいを感じられる会社になるよう、諸制度の改善を引き続き求めていくことにしています。

北海道建設アスベスト第２陣訴訟・原告本人尋問

健康な体を奪われ「悔しいです」と涙

２月８日、札幌地裁で「北海道建設アスベスト第２陣訴訟」の原告４人への本人尋問がおこなわれました。大工だった田中さんは、ススキノのビルに入っているテナントの改修工事などでアスベストにばく露し、平成 26 年に肺がんの診断を受けて左肺を切除しました。趣味だった山歩きもできなくなり、最後に「悔しいです」と涙を流しました。サイディング工だった長田さんの尋問の前には、丸ノコでサイディングを切断する際に大量の粉じんが出る様子（ＤＶＤ）が再生され、肺がんで４回の手術を受けたことなどを述べたあと、「サイディングにアスベストが含まれていて危険なことをメーカーが分かっていたのなら知らせてほしかった」と訴えました。塗装工だった大場さんは鉄骨に塗装する際に吹き付けアスベストを取り除く作業などでアスベストを吸ったこと、肺がんで右肺を切除したあと息切れ・動悸がひどくて仕事に行けないのがつらいことを述べるとともに「国がもっと早く（アスベストを禁止する）指示をしてくれていたら、こうならなかった」と訴えました。金物工だった夫を中皮腫で亡くした猪口さんは、「58 歳でまだ若かった。生きていてほしかった」「アスベストが悪いものだとわかっていながら使ったのが腹立たしい」と怒りをぶつけました。

【尋問の中で①】長田さんは建設関係の仕事をやめたあとタクシーの運転手をしました。運転中にセキをしていることに、なじみのお客さんだった勤医協関係の薬局の人に「変なセキをしているけど、どんな仕事で働いていたのか」と聞かれました。「サイディング工だった」と話すと、「それはアスベストが原因かもしれないから中央病院を受診したほうがいい」と勧められて肺がんが見つかり、労災申請しました。**【尋問の中で②】**大場さんは平成 16 年に地元の公立病院で医師から「アスベストが原因の肺がん」と診断されて手術しました。ところがその病院では労災のことは何も知らされず申請もしませんでした。その後、胸水がたまって受診した勤医協ではじめて労災の手続きをしました。